

【ファシリテーターの活動状況】

第7回地域包括ケア専門職“絆研修①病院から在宅へ「退院支援」

- 日時 令和4年7月24日(日) 9:15~12:15
- 場所 オンライン研修
- ◎ 研修総参加者 78名 : 9グループ
- ◎ 研修統括ディレクター 足立誠司医師:鳥取市立病院
- ◎ ファシリテーター 19名
- ◎ 研修支援 WG 委員、事務局等スタッフ 11名

※令和4年度第7回地域包括ケア専門職による多職種研修会シリーズ①について、昨年度に引き続き完全オンラインでの開催とし、ファシリテーター等スタッフによる3回の打ち合わせ会で準備をして研修会にのぞみました。



【プレゼンテーション】

- ◆研修の目的・在宅医療の概念・アイスブレイク
(研修統括ディレクター
足立誠司医師:鳥取市立病院)



- ◆地域包括ケア
(徳吉淳一薬剤師:徳吉薬局)



◆退院前カンファレンスの開催準備・グループワーク①
(曾田淳作業療法士: デイサービスあらいぶ)



◆退院前カンファレンスの体験・グループワーク②
(櫻井重久医師: 鳥取市立病院)



◆研修会まとめ 足立誠司医師

【ファシリテーター】

◆ブレイクアウトルームでのグループワーク及び研修支援

良くできたと思うこと、このままやっていこうと思うこと

【ファシリテーター】

- ・初回参加者、経験年数の浅い参加者が多数であることから、自発的行動が少ないことを予測して、事前に役割の決定準備を行った。発話内容が浅い、少ない者に対し内容への質問、追加情報を促した。
- ・なるべく沈黙がないよう配慮できた点は良かった。
- ・ワークの流れを切らずに、メンバー主体の意見交換を深める役割を意識できた。
- ・時間の管理を行いながら、グループワークを円滑に行う事ができるよう、その都度、説明や声掛けを行った。
- ・台本を作成し、流れによって進めていくことが出来た。時間管理もできた。

【プレゼンター】

- ・今回のプレゼンでは、グループワーク 2 への繋がり、会場へ質問を投げかける双方向の部分を作る、この 2 点を意識し行いました。打ち合わせで練習させてもらえたので、本番も問題なく行えたと思っています。今後も繋がりや双方向の部分はプレゼンだけでなく、ファシリを担当した際も意識し行っていきたいと思っています。
- ・参加者に問いかけたり、挙手をしてもらうなど、双方向性を意識したレクチャーにした。
- ・リアクションボタンを活用した双方性スキルは良かった。

【記録等研修支援】

- ・GW 時に記録だけでなく、参加者にちょっとした声掛けをすることができた。
- ・打ち合わせ会で習得した内容や必須事項は、掲示や手元で見え易く環境を整えました。
- ・参加者の職種や経験年数等をファシリテーターと確認して、ワークの進め方や参加者への声掛け等を打ち合わせして臨み、より有意義なワークになるよう努めた。
- ・今までよりもリラックスして発言しやすいグループの雰囲気づくりを意識できた。

- ・ファシリテーターとの細かなやりとりはチャットのダイレクトメッセージを活用することで、適宜コミュニケーションをとりながら進行できた。
- ・オンライン上で場の雰囲気作りが作りにくい中であったため、マスク越しでも笑顔が伝わるよう表情、参加者が話しているときはうなずきをオーバーにするなど、非言語コミュニケーションを意識することができた。
- ・参加者の発言をある程度要約して記録出来たこと。相づちや笑顔を意識したこと。
- ・ファシリテーターの方と協力し、概ね事前打ち合わせ通りに進行できた。

今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

【ファシリテーター】

- ・トラブルがあった時に対処できるよう、オンラインの基本操作がスムーズにできるように努力したい。
- ・司会者の方に任せすぎて、発言のない時間ができてしまったので、もっと介入してもよかった。
- ・時間構成と管理は早めにグループに伝えていく必要ありと感じた。
- ・模擬カンファレンスの方法の整理。伝え方。

【プレゼンター】

- ・はじめはこちらから発表をお願いし、最後は会場に投げかけ足りていない部分を補足する内容の発表を引き出せるように工夫したいと思います。

【記録等研修支援】

- ・最後まで参加者の緊張感が抜けていなかったように感じる。アイスブレイキングの時間でもっとくだけた雰囲気作りができるような声掛けをした方が良かったかと思う。
- ・当日欠席等でグループ編成が変わることもあるので、自分の役割だけでなく、ファシリテーターや事務局のフォローができるようにスキルをみがきたい。
- ・参加者の習熟度に合わせて、ワークの目的や進行ができるようなスキルが必要。
- ・アイスブレイクでストレッチを取り入れていたのが良いと感じた。グループメンバーの雰囲気にもよるが、取り入れてみたいと思った。
- ・参加者の方は自分なりの意見は持っていると思うのですが、自らの声を出して積極的にディスカッションに参加される方は少ないように感じた。どうしたら話しやすい雰囲気を作れるか課題。
- ・自分自身がいつも緊張してしまっており、それが伝わっているように感じる。アイスブレイク時にもっと緊張をほぐすようなことをしていきたい。

研修参加者にとってよかったと感じたこと

- ・他職種を体験できたこと、退院前カンファレンスの模擬体験は今後の実務に有益に活用できる。
- ・ファシリテーターの明るいふるまいが、GW 時のよい雰囲気につながったと感じました。
- ・最初は司会や発言者に戸惑いや遠慮がありましたが、限られた時間の中で話し合い、まとめができました。この経験と多職種協働を知り、これから活かしていくきっかけになったと思います。
- ・初めてと言われていた方も、役割も率先してされ、参加者にとってとてもいい研修だと感じた。
- ・双方向のコミュニケーションを意識した講義を展開してくださったので参加者の学びも深まった。
- ・職種が偏らないようにグループ編成してくださったので違う職種の視点や意見が参考になった。
- ・講義やグループワークを経験するだけでなく、ZOOM に慣れるような内容も多くあったのは良かったと思います。ZOOM のハードルが下がってくるといいなと感じました。
- ・参加者全員が発表者、司会のいずれかの役割を担っていただき、達成感を感じてもらえたのではないかと思います。立候補された方もあり、積極的な姿勢が伺えた。

- ・多職種で話し合える機会はコロナ禍の中少なくなっています。ファシリテーターがいて、ポイントをまとめた発表用のパワーポイントが出てきて発表ができるという守られた中での研修の場は安心して参加できるのではないかと感じました。
- ・退院前カンファレンスに参加したことのない人でも多職種連携の意味を感じ取れたと思います。
- ・自分とは違った視点での考えを聞けられたこと。同じ意見をもつ人がいるとわかったこと。
- ・講義の内容は地域包括ケアシステムなど参加者にとって振り返りの機会となった。
- ・退院前カンファレンスで、自分とは違う職種を経験することで、他職種の価値観や考え方なども疑似体験できて、実際のカンファレンス開催の時に役立つと思う。

スタッフの感想・意見

- ・ファシリテータを経験する事で、毎回の学びがある。初学者、職種の経験年数の少ない者が多数参加されるようになり、ワークの進行方法の工夫が必要となっている。今回の研修を経験し、わかりやすい説明、具体的な示唆とはどんな方法が良いかを考えていく必要性を感じた。
- ・80名参加の大きな研修会にもかかわらず、良い意味で柔らかい印象を受けましたので、参加者も発表等しやすかったのではないのでしょうか。参加した職員からも、大変好評でした。
- ・今後もカンファレンスや担当者会議に参加したことがない方が絆研修を受けられると思います。経験の浅い方でも発言しやすいような進行ができるように精進します。
- ・打ち合わせ会議や事前準備など本当に助かります。何回もやってやっと少し自分のレベルアップに繋がっているのを感じます。
- ・スタッフの皆さんが同時にいろんなことを判断し対応されていることに驚きます。参加者はファシリに助けられながら判断し、発言できるようになりました。あっという間の研修でした。
- ・沢山の方々が、各役割を担って連携され研修会の実施を導き、研修会実施においては、多種職ならではの視点やフォローの仕方などがあることを実感させて頂きました。
- ・今回、初めて参加させて頂き、気づきを頂きました。今後も自己研鑽を含めてお手伝いさせて頂きたいと思いました。
- ・地域の各多職種・多機関等の方々との交流を深めて行くことが、地域ケア、地域の力になるのかなと思いました。
- ・60人という人数のオンライン研修を担うには事務局が少ないと感じた。事務局のサポート役をスタッフから募っても良いと思うし、できるだけ協力したい。
- ・事務局とスタッフの皆様の臨機応変な対応に毎回すごいと感じる。
- ・今回は若い方や経験年数が浅い方も多く参加されていたのが嬉しかった。幅広い年代、様々な職種の方とつながることができて新鮮だった。
- ・今回はプレゼンターとして目的を持ち研修に参加することが出来ました。今後もプレゼン・ファシリどちらの立場でも明確な目的を持ち参加し、参加者以上に学び・気づきを得れるくらいの気持ちで取り組みたいと思っています。
- ・オンライン研修でスタッフとして参加するのが初めてで、不安な気持ちの方が大きかったですが、事前打ち合わせを通して徐々に慣れていくことができました。当日は緊張しながらも、グループワークで様々な意見を聞き、とても有意義な時間を過ごすことができました。事前の準備等いろいろとありがとうございました。
- ・初めてのファシリテーターで非常に緊張したが、ほかのスタッフの方や、参加者の方の協力で無事終わられてよかった。模擬カンファレンスで他の職種を経験してみて、これまであまり意識してこなかった視点についても意識するきっかけになり良かった。
- ・初めてのオンラインでのファシリだったので、集合形式とは違った方法や雰囲気もあって戸惑うこともありましたが、良い勉強になりました。

- ・いつ参加させてもらっても、熱心な受講生さんが多いので、良い研修だと感じます。
- ・毎回参加者に助けられます。グループワークでは司会者が重要ですが、司会をフォローする他の参加者も重要だと学びました。
- ・G 変更等で焦りましたが、自分がファシリだったら・・・自分が記録だったら・・・自分がプレゼンだったら・・・直接の参加者だったら・・・各相手の立場になって考えながら、理解を深めさせていただきました。多職種や他機関施設等(他業種)の役割や違いを学び、地域のチームでよりよい支援に繋ぐために、自己研鑽していきたいと思いました。
- ・今回は、介護職の参加が増え、また、行政職や地域での支援者となる職種の方の参加があり、新しい視点での議論につながったと感じた。地域で暮らす住民の方を中心に考えることができ、より一層充実した学びのある研修になったと感じた。

発表用ワークシート① 退院前カンファレンスの開催準備

誰が参加するとよいか	配慮すべき点
・ケアマネジャー ※各職種との連携・在宅生活の調整 ・薬剤師 ・福祉用具 ・本人、奥さん、長女、長男(家族) ・PT (在宅生活でのリハビリ) ・栄養士 ・介護職 ・医師、看護師 (訪問含む) ・近所の方 (町内会長) ・民生児童委員	・本人の希望を大事にする。(家に帰る。) ・奥さん(家族)の不安と負担軽減。→つながるサービス ・奥さんの支援がどこまでできるか。 ・娘(家族)の協力 ・自宅の環境整備(入浴)→金銭面の負担 ・本人の希望と家族の思いのギャップの埋め方。 ・案の処方(飲み方) ・家族外の方がカンファレンスに入る場合の情報提示の仕方(個人情報)→本人や家族の希望と同意が必要。



発表用ワークシート② 多職種カンファレンスを体験する

違う職種を体験して感じたこと	「カンファレンスの流れ」について感じたこと
・どれだけ本音を言えるのかと感じた。人数が多ければ言いづらいように感じた。 ・緊張した。自分の知識+本人の気持ちに寄り添えるかも考える ・患者さんが病院でできていることが家でできているか、趣味をどうできるようにするのかの提案が難しかった。 ・ケアマネは絶妙なバランスを取る難しさを感じた。先を見越すことの難しさ ・責任感があって、言い切ることの難しさを感じた。 ・リハビリや看護師に比べたら関わる機会が少ないのももっとうまくできればと感じた。	・良い機会に回っていた ・流れが事前にわかっていたので良かった。 ・どういう内容を話せばいいのが事前に振ってくれた ・カンファの体験ができてよかった。他の職種の方がどうしているかを考えているかわかった。 ・みなさん分かりやすい表現で話されていた。



